

2012年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



教室だより 11月号

公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

悪いのは子どもではない

秋もいよいよ深まり、朝夕肌寒さをおぼえます。11月の異称、霜(しも)月(つき)は、この時期から一段と寒さが増し、霜が降りる「霜降り月」の略という説が有力です。人々は農作物や植物が霜の害に遭わないよう、対策を講じます。子育ても、子どもたちがきちんと育つよう、対策を講じるのが大人の役目です。学習は、子どもがスラスラできるところから始め、その子にとって適切な内容と量の学習を続けていけば、誰でも伸びていくことができます。公文式では、子どもがスムーズに教材が進まなくなったとき、「悪いのは子どもではない」という観点で、その子の指導を点検します。その子の現時点の能力を最大限に引き出せる適切な教材を、適切な導き方で与えるよう直します。ご家庭でお子さまの学習がスムーズでないように感じられましたら、お子さまが悪いと思われずに、教室までご相談ください。ご一緒にお子さまの成長を考えてまいりましょう。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる)先生の言葉より

*「まず一芸」に秀でさせること

乳幼児にとって、新しい事柄を知することは、まぎれもなく楽しく愉快的ことです。「なぜ?」「どうして?」を連発するのも、その表れ。親が押しつけるのではなく、子どもの知識欲に合わせて、それが満たされる道すじを示してあげるだけで、子どもは自分の力で伸びていきます。

たくさんの歌を聞かせ、本もたくさん読み聞かせましょう。

そうすれば、語彙が豊富になり、記憶力も伸び、吸収する力は、その後の学習に生かされます。

私は、公文式で算数ができるように特訓しなさいとか、英検合格を目標にして英語を勉強させなさいとすすめているわけではありません。文字を知って本を読む、あるいは数と親しみ数を操作する、母国語と違う体系の言語に触れて能力の幅を広げるということを通して、高い能力、柔軟な思考力を身につけた、学習好きな子どもに育てましょう、ということをお願いしたいのです。また、幼児にはそれを受け入れる能力が、十分に備わっているということを知っていただきたいのです。

2012年 11月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 文化の日
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23 勤労感謝の日	24
25	26	27	28	29	30	

本市場教室日□

横割教室日△

「みんなどんぐりの背くらべで、四番ハッターが決めに
く。困ったなあ。」

どんぐりの
せいくらべ

今月のことわざ

様

KUMON

【第20回】公文式学習法

1. 学習意欲を生む〈100点〉

公文式では、その子どもがらくにできる段階から学習を始めるわけですから、学習を始めてしばらくは、100点ばかりが続きます。たとえ学校で悪い点ばかりをとっているような子どもでも100点がとれます。

入会時の学力診断テストで、その子どもの学力を見きわめて、100点が確実にとれる教材を与えるから、それができるのです。おとなから見れば「わかるところよりもやさしいところをやるのだから、100点は当たり前」と思えても、子どもにとっては問題の内容よりも「全部できた。最高!」という喜びのほうのはるかに大きいのです。

そして、この「やった、全部できた、100点だ」と喜びは、「よしっ、次も100点をとるぞ」という気持ちを誘います。そして、次も「やった、また100点」のところを子どもに学習させます。

予定どおり、子どもたちは「今度も100点」です。「よしっ、次も!」100点、100点、また100点……。こうして100点を取り続けると、学習はいやな勉強ではなく、楽しい作業になっていきます。そしてどんどん先へ進む意欲がわいてきます。この意欲の高まりは、勉強がらいだった、それまで100点などといったことのなかった子どもほど、はっきり表れます。

2. らくらく学習を続けるための〈復習〉

公文式では、学習がどんどん進んで高い段階になっても、いつもらくに学習が続けられるように、必要な復習をします。また、教材が学年相当をこえれば、常に復習をくり返しながら進んでいくことになります。

公文式という復習とは、同じ番号の教材をくり返したり、何十枚とか何百枚か前の番号の教材からもう一度学習することです。「公文式では、100点をとっても、また復習するのですか」という質問を受けることがあります。公文式の復習は先に進んだときに苦勞をしないためにするのです。100点といっても、その内容はピンからキリまであります。必死にがんばってやっととった100点と、余裕しゃくしゃく、さっととった100点は別のものであります。同じ100点でも時間がかかりすぎるようでは、先の段階に進んでからが心配です。「ぎりぎりの100点でなく、らくらくの100点。難しいからでなく、難しくなる前の復習」……勉強を楽しく進める秘密が公文式にはいっぱいあります。

子どもは、悪い点で叱られるより、いつも100点でほめられるほうが伸びるのですから。

*ゆき子の一言コラム

小学校1年生の勉強が土台に

小学校低学年の勉強の仕方がそれからの長い学校生活の土台となります。

1. 小学校低学年は学力の土台を作る時期

小学校の低学年は学力の土台を作る時期にあたります。この時期に、テストに出るような知識をつけてもあまり意味がありません。英語、数学、国語などの知識の差は、高学年になって本格的な勉強が始まるとすぐに逆転してしまうからです。ですから、小学校の低学年で大事なことは、勉強の成果を出すことではなく、勉強の習慣をつけること、日本語力を育てること、学力の土台を作ること、などになります。

このうち日本語力を育てるためには、三つのことが必要です。一つは読書、もう一つは対話、そして最後の一つは、同じ文章を繰り返して読む練習です。同じ文章を繰り返して読むためには、自分の好きな本を何度も読むことが大切ですが、公文式ではこれを読書以外に音読や暗唱の自習として取り組むようにしています。

毎日の音読や暗唱の勉強は、勉強の習慣を作ることに役立ちます。

2. 読書の習慣をつけることによって、一生学び続ける姿勢ができる

今日の社会は、ますます流動化しています。学校の成績は、小、中学校のころまでは親の勉強のさせ方次第で、ある程度上位を占めることができます。しかし、高校、大学と進むにつれて、本人の努力や実力が大きく物を言うようになってきます。

P・F・ドラッカーは、これからの企業の平均寿命は30年程度だから、人間が持っている知識の寿命の方が、勤める企業よりもはるかに長くなるだろうと述べています。

勉強をして、いい成績を上げて、いい学校に入ったらそれでおしまいというのは、過去の時代の話です。これからは、時代の変化に応じて新しい知識や技能を次々と学んでいく形が日常化していきます。

今有利な資格や学歴というものは確かにありますが、一生有利な資格や学歴はない、と考えておくことが大切です。この継続して学ぶ姿勢に最も関連が深いのが、毎日の読書の習慣なのです。

(次号に続く)